

授業概要

「小学校国語科教育」をテーマに、国語の授業を実践的・理論的に学んでいく。具体的には「聞く・話す」「書く」「読む」という具体的な言語活動の追試を行い、どのような授業ができるかを試行する。さらに、複数の文献をもとに言語活動の現実を探りながら、先行研究から何が学べるかを思考する。最終的には、理論と実践をつなぐ研究姿勢を身に付けることをめざす。

授業計画

第 1 回	ガイダンス 国語「概説」	第 16 回	発展 1 言葉遊び
第 2 回	ことばの力 1 話す力・聞く力	第 17 回	発展 2 日本語の特色
第 3 回	ことばの力 2 書く力 1	第 18 回	発展 3 メディア・リテラシー
第 4 回	ことばの力 3 書く力 2	第 19 回	研究テーマの検討 1
第 5 回	ことばの力 4 読む力	第 20 回	研究テーマの検討 2
第 6 回	文章のいろいろ 1 説明的文章	第 21 回	研究テーマの検討 3
第 7 回	文章のいろいろ 2 文学的文章	第 22 回	研究テーマの検討 4
第 8 回	文章のいろいろ 3 言語文化	第 23 回	研究計画の検討 1
第 9 回	ことばの理解 1 表記	第 24 回	研究計画の検討 2
第 10 回	ことばの理解 2 ことばのきまり	第 25 回	研究計画の検討 3
第 11 回	ことばの理解 3 語と意味	第 26 回	研究計画の検討 4
第 12 回	ことばの力 5 音読の力	第 27 回	研究計画の発表 1
第 13 回	ことばの力 6 コミュニケーションの力	第 28 回	研究計画の発表 2
第 14 回	ことばの力 7 情報活用の力	第 29 回	研究計画の発表 3
第 15 回	ことばの力 8 論理の力	第 30 回	研究計画の発表 4

到達目標

小学校国語科教育に関わる内容の中から、卒業論文に向けてテーマを見つけ、研究計画を立てる。

履修上の注意

発表・討論を中心に行うので遅刻しないこと。また、順番に発表を行うので欠席しないこと。

予習・復習

あらかじめ授業に関係するテキストの内容や教材を読んでおく。また、自分の考えを整理して書き残しておく。

評価方法

発表 40%、学習姿勢 20%、レポート 40%で評価する。

テキスト

- ・教科書名：言語活動中心 国語概説 改訂版：小学校教師を目指す人のために
- ・著者名：岩崎淳ほか
- ・出版社名：学文社
- ・出版年：2022年(9784762031274)

**授業概要**

本ゼミナールでは、「子どもの健康」をキーワードとして、卒業論文を書くための研究を進めていきます。また、同時に保育・教育に関する基本的な技術、能力を高め、実習、就職へとつなげていくことのできる能力を身につけていくことを目的とした演習を展開していく予定です。

**授業計画**

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	オリエンテーション
第 2 回	レポート①～作成	第 17 回	レポート③～作成
第 3 回	レポート①～発表	第 18 回	レポート③～発表
第 4 回	レポート①～発表	第 19 回	レポート③～発表
第 5 回	レポート②～作成	第 20 回	卒業論文の進め方
第 6 回	レポート②～発表	第 21 回	卒業論文の研究テーマ
第 7 回	レポート②～発表	第 22 回	文献の探し方①
第 8 回	保育・教育実践研究①	第 23 回	文献の探し方②
第 9 回	保育・教育実践研究②	第 24 回	卒論研究①
第 10 回	保育・教育実践研究③	第 25 回	卒論研究②
第 11 回	保育・教育実践研究④	第 26 回	卒論研究③
第 12 回	保育・教育実践研究⑤	第 27 回	卒論研究④
第 13 回	保育・教育実践研究⑥	第 28 回	卒論研究⑤
第 14 回	保育・教育実践研究⑦	第 29 回	研究結果発表
第 15 回	まとめ	第 30 回	まとめ

**到達目標**

- ・グループで協力しながら、課題に取り組むことができる。
- ・卒業論文のテーマを決めることができる。

**履修上の注意**

グループ学習、発表などがあるので、協調性が必要となります。

発表のための練習等により、時間外での活動が必要になってくる可能性があります。その際にも、「協調性を最重視し、アルバイトなど自己都合をできる限り変更することができる学生の履修を望みます。

① 卒業論文の研究テーマは、私の研究分野（体育学－発育発達）を中心とした内容に限られます。ある程度、卒論テーマをイメージした上で、ゼミを選択するようにしてください。

② パソコンを使った授業を行います。

基本的に授業内で課題を指示します。授業内で終わらなかった課題については、復習をかねて授業時間外で学習してもらいます。

※コロナウイルス感染症の流行状況によりますが、ゼミ合宿や保育所での学外研修を行うことがあります。

実施することになれば、日程を調整しますので、必ず参加してください。

また、費用がかかりますので、準備をしてください。

**予習・復習**

発表のための準備等、授業時間外での自主学習が必要となる。

**評価方法**

発表内容（80%）と意欲的に学ぼうとする態度（20%）を総合的に評価します。

**テキスト**

特に、指定しない。

**授業概要**

本演習は音楽全般に関するゼミです。音楽が得意な人はもちろん、音楽が好きで、音楽や音楽教育を勉強したい人、音楽の指導力を高めたい人は歓迎します。授業では、音楽指導ができる保育者・小学校教員、音楽に明るい社会人の育成を目指した活動を行います。3年次の専門演習では共同研究を中心に、4年次の卒業研究では個人研究を中心に活動します。

具体的には、(1)アンサンブル(わらべうたをもとにした合唱、小学校音楽の教材曲のアレンジによる合奏、即興演奏など)、(2)音楽ワークショップ(ファシリテーター役を交代で行い集団による音楽を創造する)、(3)アレンジ(より豊かなピアノ伴奏アレンジ、子ども参加の伴奏、合奏や合唱のアレンジ、パソコンによる音楽制作)、(4)共同研究(グループでテーマを設定し、研究の仕方、文献の探し方、発表の仕方を学びプレゼンテーションする)を行います。(1)～(3)は春期から、(4)は秋期後半から行います。

授業で学んだ結果や成果は保育実習や教育実習で生かしていただきますが、この演習としても、認定こども園や施設等への出前演奏、埼玉祭での発表、授業最後の共同研究発表会・演奏発表会などで発表し、その発表の成果を卒論につなげていきます。

**授業計画**

第 1 回	ゼミ計画、アンサンブル①	第 16 回	プレゼンテーション演習①
第 2 回	アンサンブル②	第 17 回	プレゼンテーション演習②
第 3 回	アンサンブル③	第 18 回	プレゼンテーション演習③
第 4 回	アンサンブル④	第 19 回	プレゼンテーション演習④
第 5 回	アンサンブル⑤	第 20 回	「学び」研究について①
第 6 回	音楽ワークショップ①	第 21 回	「学び」研究について②
第 7 回	音楽ワークショップ②	第 22 回	音楽の教育方法理論①
第 8 回	音楽ワークショップ③	第 23 回	音楽の教育方法理論②
第 9 回	音楽ワークショップ④	第 24 回	音楽の教育方法理論③
第 10 回	音楽ワークショップ⑤	第 25 回	研究テーマ発表のしかた
第 11 回	アレンジ①	第 26 回	文献・資料の探し方、読み方の基礎
第 12 回	アレンジ②	第 27 回	論文・レポートの構成の基礎
第 13 回	アレンジ③	第 28 回	引用のしかたの基礎
第 14 回	アレンジ④	第 29 回	筆者の考えの解釈の基礎
第 15 回	アレンジ⑤	第 30 回	共同研究発表会・演奏発表会

**到達目標**

- (1) アンサンブルに関心を持ち主体的に演奏することができる。
- (2) 音楽ワークショップを計画し実施することができる。
- (3) アレンジに関心を持ち、音楽教材・作品をつくり発表できる。
- (4) 研究分野について理解し、適切にテーマを設定することができる。

**履修上の注意**

・「読む」(音楽・文章)ためのスキルを高める必要があり、パソコン、タブレット、スマホを上手に使うことで検索すること、ICT を使って情報を上手に整理すること、情報を加工すること(情報リテラシー)が必要です。中でもパソコンを手際よく使えることが必要です。社会に出てからはより一層必要になりますので、ぜひ使い慣れましょう。

**予習・復習**

・前半の 15 回までは、パソコン等に習熟し、音楽スキルの練習に時間を割くことになります。後半の 15 回は重要な「研究テーマ設定」のために、①指導スキルを身に付けること、②学んだことを整理すること、③集めた情報を整理すること、④発表のためのプレゼン資料を作成することに時間を割くことになります。

**評価方法**

- ・アンサンブル、音楽ワークショップ、アレンジ：30%
- ・音楽教材・作品の発表への努力と内容：20%
- ・協働的に参画する姿勢：20%
- ・プレゼンテーション、研究テーマの内容：30%

**テキスト**

テキストは履修者に合わせて適宜使用します。その他、オリジナル音源やプリント、スライドを使用します。

**授業概要**

この演習は「卒業研究」の前段階として、造形表現の発達段階と特性を理解するとともに、子どもの造形活動の指導・支援に必要な基礎的知識と技能を幅広く身に付けることを目指す。また保育・教育の造形指導者として、子どもの要求にふさわしい援助を与えるための指導の研究と、豊かな表現を促すための配慮・援助や材料・用具等の取り扱いについて、製作体験を通して学習していく。

**授業計画**

第 1 回	材料経験の内容と方法 ①平面表現(素描, 水彩, 絵本づくり)	第 16 回	創造力を育てる遊具 ・仕掛けのあるおもちゃ(木のおもちゃ, 玩具など) ・大型遊具のデザイン
第 2 回		第 17 回	
第 3 回		第 18 回	
第 4 回	②立体表現(紙工作, 粘土型取り運動 会メダルなど)	第 19 回	マルチメディアを用いた映像表現 (クレイアニメ, ライトファンタジー)
第 5 回		第 20 回	
第 6 回	学外活動—美術館訪問と鑑賞教育—	第 21 回	ICT 教材の活用について
第 7 回	材料体験の内容と方法	第 22 回	
第 8 回	③伝承の遊び(飛び出す仕掛け絵本, 折り紙, お便りカード)	第 23 回	海外の子どもの造形表現(欧州南米)と 鑑賞教育(アールブリュット他)
第 9 回		第 24 回	
第 10 回		第 25 回	
第 11 回	幼・保・小学校の連携と総合的な活動 (紙芝居, パネルシアター, ペープサ ート, 影絵, 障がい者のアート, 砂遊 びなど)	第 26 回	学外活動: 親子を対象とした造形ワー クショップ(造形遊びの発展)
第 12 回		第 27 回	
第 13 回	乳幼児から小学校児童画の見方 —発達段階による様々な表現—	第 28 回	研究課題: 模擬保育・指導計画の設定 →製作活動の導入→展開→まとめ, 評 価と反省会
第 14 回		第 29 回	
第 15 回		第 30 回	

※学芸員による学校鑑賞教育を聴講。公共施設にて親子を対象としたワークショップ<sup>o</sup>の学外活動を計画中。

**到達目標**

- ・材料をもとにした造形活動を楽しみ豊かな発想をするなどして、自らの造形表現を高める。
- ・教育・保育者としての造形活動を指導・支援する為の知識や、基礎となる技能を習得する。
- ・研究テーマを設定して、継続的(次年度4年次)に研究計画を遂行する能力を養う。

**履修上の注意**

課題に対して主体的な取り組みを心掛け、地道な努力の積み重ねを目指す。手先の器用さよりもむしろ時間をかけた丁寧さと根気強さが求められる。教員・学生同士との対話的で深い学びを目指す。

**予習・復習**

造形の実践力を高めるために、公立美術館・公共施設等を利用したワークショップの企画参加を検討中。ファシリテーター(促進者)として子どもとの関わりを持つ場面に、積極的に参加することを望む。

**評価方法**

課題に取り組む態度、製作した作品の質と量(50%)、ゼミ単位でのワークショップ・ボランティア活動(30%)、製作レポートの内容(20%)により評価する。

**テキスト**

- ・教科書名: 『保育・教育のための実践事例で理解するわかりやすい「表現」』
- ・著者名: 梅澤実・森本昭宏編著
- ・出版社名: 創成社
- ・出版年(ISBN): 2020

**授業概要**

社会学、ジェンダー学の視点から「子ども」「家族」をめぐるさまざまな問題に目を向け、アプローチしていきます。保育、教育、福祉といったみなさんが目指す「子どもの現場」には、多くの家族問題、社会問題が生じています。それらの問題について考え、学ぶことはみなさんの「力」となるはずで、さらに、真剣に取り組めるテーマに出会い、卒論を作成する経験は大きな「自信」につながります。そのための貴重な2年間を、大切に過ごしてほしいと考えています。

前期は文献を講読し、資料を調べ、仲間と議論します。後期は前期の作業をふまえ、それぞれが自分の卒論テーマを模索し決定し、研究計画書を作成します。卒論は毎年、多様なテーマで取り組まれています。これまで先輩方が取り組んできたテーマをいくつか紹介します。「性別にとらわれない保育とは～性別違和をもつ子どもを支える」「幼少期のADHDを考える」「普通の家族」とは？～大学生の家族意識調査から考える」「不登校児とその支援」「父子家庭と子ども」「赤ちゃんポストについて考える」「ブラック校則について」「若者とスマホ依存」「外国籍の親をもつ子どもの保育」「デートDVと恋愛幻想」

**授業計画**

第1回	オリエンテーション ゼミの進め方	第16回	研究の進め方
第2回	論文を執筆するための心得	第17回	問題関心のありか
第3回	研究を進めるための心得	第18回	研究課題の検討
第4回	記事検索と資料の調べ方	第19回	先行研究の調べ方
第5回	文献の読み解き方と報告のやり方	第20回	先行調査の調べ方
第6回	文献講読と議論1	第21回	参考文献リストの作成
第7回	文献講読と議論2	第22回	研究方法の検討
第8回	文献講読と議論3	第23回	分析方法の検討
第9回	文献講読と議論4	第24回	研究計画の報告1
第10回	文献講読と議論5	第25回	研究計画の報告2
第11回	文献講読と議論6	第26回	研究計画の報告3
第12回	グループディスカッション	第27回	研究計画の報告4
第13回	関心あるテーマへのアプローチ1	第28回	研究計画の報告5
第14回	関心あるテーマへのアプローチ2	第29回	全体討論
第15回	後期に向けて	第30回	4年次の卒論演習に向けて

**到達目標**

- 文献を読み解く力を身につけることができる。
- 研究をすすめていくために必要な知識や態度、マナーやルールを身につけることができる。
- 仲間と議論することで自らの考えを鍛えることができる。
- 議論をとおして相手の考えを理解することができる。
- 自らの問題関心を深め、卒業論文のテーマを決めることができる。

**履修上の注意**

文献を読み解き、資料を調べ、自らの「問い」を立てる、という作業に真剣に取り組む態度が必要となる。報告や課題に積極的に取り組む態度が求められる。議論には活発に参加することが求められる。仲間の意見を尊重し、自分の意見もしっかりと伝えることができるコミュニケーション能力が求められる。

**評価方法**

出席は当然重要である。そのうえで、ゼミでの報告態度と報告内容（40%）、議論への参加態度（30%）、課題レポート（30%）で、総合的に判断する。

**テキスト**

前期にとりあげる文献については、ゼミ生と相談のうえ、初回のゼミで決める。

**授業概要**

算数・数学教育の文献講読や講読内容の文章化を通して、内容を理解するとともに、各自の課題意識をもち卒業論文のテーマを見つける。また、ゼミの全員でひとつのテーマについて調べ、協働で作り上げ発表することによって、文献の調べ方・まとめ方・プレゼン能力を培い、お互いに協力する意義を知る。

春期は、玩具や教材・教具を使う体験活動を行い、文献も併用してその意義について考察する。続いて、空間図形の、書籍・論文・学習指導要領・小学校教科書・授業実践例を横断的に読解することを通して、理論と実践の融合を理解する。秋期は、論文の書き方を理解し、各自の卒業論文の題目を決定する。また、卒論のための文献を検索・収集し、はじめに（研究動機および目的）と構想（目次）作成を行う。

**授業計画**

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	『論文の書き方』読解とプレゼン①
第 2 回	数概念を形成するための玩具・教具	第 17 回	『論文の書き方』読解とプレゼン②
第 3 回	平面図形概念を形成するための玩具・教具①	第 18 回	『論文の書き方』読解とプレゼン③
第 4 回	平面図形概念を形成するための玩具・教具②	第 19 回	論理立てた文章の書き方について
第 5 回	空間図形：書籍の読解と発表①	第 20 回	ワープロによる文章作成と管理
第 6 回	空間図形：書籍の読解と発表②	第 21 回	卒業論文の題目決定へ向けて
第 7 回	空間図形：書籍の読解と発表③	第 22 回	文献検索の方法と実際
第 8 回	空間図形：教具を使った活動の体験	第 23 回	書籍文献の収集とリスト作成
第 9 回	空間図形：学習指導要領と教科書	第 24 回	一般雑誌文献の収集とリスト作成
第 10 回	空間図形：授業実践から学ぶ	第 25 回	論文文献の収集とリスト作成
第 11 回	プログラミング活用授業から学ぶ	第 26 回	卒業論文：題目決定
第 12 回	プログラミング演習①	第 27 回	卒業論文：はじめに（研究動機と目的）
第 13 回	プログラミング演習②	第 28 回	卒業論文：構想と目次作成
第 14 回	机間指導について、発問と応答について	第 29 回	卒業論文の構想発表会
第 15 回	計算練習の意義と定着について	第 30 回	卒業論文本体の執筆へ向けて

**到達目標**

- ・読んだ文献資料について、自分の言葉でまとめて発表ができる。
- ・算数の授業構成（教材分析、学習指導案、授業実践）や、幼児の遊び活動の構成ができる。
- ・論文の書き方、文献の探し方が分かる。
- ・卒業論文の題目を自ら決定し、構想をまとめる。
- ・小学校程度のプログラミングができる。

**履修上の注意**

- ・ゼミのメンバーと協力して、共通のテーマに関する追求活動をする姿勢を求める。
- ・したがって、遅刻や休みをしないようにし、楽しく意義のある時間となるよう努めなければならない。
- ・幼児期から小学校にかけての、数概念や図形概念に関係した、遊びや学習を中心に行うが、それぞれの興味や関心に合わせて、中学校以上の数学を扱うこともある（採用試験の数学にも役立つ、論文題目可）。

**予習・復習**

指定した文献を読解してプレゼン資料を作成したり、課題に対する文献資料を探したりするために、授業外で学参すること。論文題目が決定した後は、各自で文献検索やリストの作成などをすること。

**評価方法**

文献講読の発表内容（30%）、共通テーマ活動への協力と追及姿勢（30%）、卒業論文へ向けた個人追求姿勢（40%）、授業態度も含めて総合的に評価をする。

**テキスト**

- ・教科書名：論文の書き方
- ・著者名：清水幾太郎
- ・出版社名：岩波新書
- ・出版年（ISBN）：（後は、適宜資料を配布する。）

**授業概要**

心理学を基盤として、乳児期、幼児期、児童期の子どもに関する現代社会の様々な課題に積極的に向き合う姿勢を養い、卒業論文を作成するために必要な知識、技能を身につける。そのために、発達心理学や教育心理学の基礎的文献等を用いて、発達や教育に関する心理学的な観点による調査や考察について学ぶ。具体的には、春期は、文献講読を通じて、発達心理学、教育心理学の概念を学ぶことを中心とする。秋期は、卒業論文の作成に向けて、研究テーマを検討するとともに、心理学の研究手法や分析方法について理解する。これらの活動を通じて、発達心理学、教育心理学に関する自らの興味関心を追求し、卒業論文のテーマを定め、研究計画の立案につなげる。

**授業計画**

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	発達心理学、教育心理学についての知識	第 17 回	研究関心の確認
第 3 回	発達心理学の研究の特徴	第 18 回	研究テーマの探索
第 4 回	教育心理学の研究の特徴	第 19 回	先行研究の検討①
第 5 回	文献の紹介、発表担当回の決定	第 20 回	先行研究の検討②
第 6 回	文献検索の方法	第 21 回	心理学の研究手法①
第 7 回	文献講読の方法	第 22 回	心理学の研究手法②
第 8 回	レジュメの作成方法	第 23 回	分析方法の見通し①
第 9 回	発表および質疑応答のしかた	第 24 回	分析方法の見通し②
第 10 回	文献講読実践①	第 25 回	研究計画書の作成①
第 11 回	文献講読実践②	第 26 回	研究計画書の作成②
第 12 回	文献講読実践③	第 27 回	卒業論文の構想発表①
第 13 回	文献講読実践④	第 28 回	卒業論文の構想発表②
第 14 回	文献講読実践⑤	第 29 回	卒業論文の構想発表③
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ、卒業論文に向けて

**到達目標**

- ・発達や教育に関わる諸問題を理解することができる。
- ・発達心理学および教育心理学の研究対象や研究方法を理解することができる。
- ・発達や教育に関わる問題について、自らの興味・関心を追求し、卒業論文のテーマを定めることができる。

**履修上の注意**

- ・主体的かつ粘り強く課題に取り組む姿勢を求める。
- ・グループワークや議論を行うため、他の受講生との活動に対しても積極的な姿勢を求める。
- ・他者の発表や意見を聞いたり、感想や意見を述べたりすることでお互いに学び合う姿勢を求める。
- ・このゼミでは以上を重視するため、やむを得ない理由以外での遅刻、欠席は認めない。
- ・外部施設の見学を行う場合がある。

**予習・復習**

例えば、以下の活動について授業時間外の学習が必要である。  
レポート作成、発表の準備、議論のための資料の確認など。その他、必要に応じて指示する。

**評価方法**

授業への参加態度およびグループワークへの取り組み状況 (30%)、文献講読レポート (40%)、研究発表 (プレゼン) (30%)

**テキスト**

ゼミ内で適宜指示する。

**授業概要**

子ども理解や家庭の問題・支援に関する様々なテーマの中からゼミ生が関心のある内容を取り上げ、文献講読およびディスカッションを通して、各自が取り組んでいきたいテーマを探索する。問題意識を持ってテーマに取り組み、研究に向き合う姿勢を身につけることを目指す。また、卒業論文作成に必要な知識や技能の獲得を目的とする。春期は、心理学の研究の特徴や方法・分析を学ぶとともに、子どもの発達や家庭に関する課題を心理学的視点でとらえ、各自の研究テーマを探索する。秋期は、グループもしくは単独でテーマを設定して、卒業論文の予備調査にもなり得るプレ卒論に取り組み、卒業論文の研究計画立案につなげていく。

**授業計画**

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	心理学の研究の特徴とテーマ①	第 17 回	プレ卒論の研究計画の確認
第 3 回	心理学の研究の特徴とテーマ②	第 18 回	プレ卒論の問題と目的の確認
第 4 回	文献講読と討論：研究テーマ探索①	第 19 回	プレ卒論の調査実施・分析①
第 5 回	文献講読と討論：研究テーマ探索②	第 20 回	プレ卒論の調査実施・分析②
第 6 回	文献講読と討論：研究テーマ探索③	第 21 回	プレ卒論の調査実施・分析③
第 7 回	文献講読と討論：研究テーマ探索④	第 22 回	プレ卒論のまとめ・作成①
第 8 回	文献講読と討論：研究テーマ探索⑤	第 23 回	プレ卒論のまとめ・作成②
第 9 回	心理学の研究手法と分析：質問紙調査	第 24 回	プレ卒論の発表①
第 10 回	心理学の研究手法と分析：面接調査	第 25 回	プレ卒論の発表②
第 11 回	心理学の研究手法と分析：観察法	第 26 回	卒業論文の研究計画作成①
第 12 回	プレ卒論の構想検討①	第 27 回	卒業論文の研究計画作成②
第 13 回	プレ卒論の構想検討②	第 28 回	卒業論文の研究計画の発表①
第 14 回	プレ卒論の研究計画	第 29 回	卒業論文の研究計画の発表②
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ

**到達目標**

- 子どもと子どもを取り巻く環境に関する諸問題について、心理学的視点でとらえることができる。
- 他者の意見を尊重すること、自分の考えを述べることができ、積極的に討論することができる。
- 自分の関心・問題意識を追及して、卒業論文のテーマを決めることができる。

**履修上の注意**

- グループワークやディスカッションを行うため、他者を尊重して協力するよう努めること。
- 主体的な取り組みが求められ、かつ、グループワークも多いため、遅刻・欠席はしないこと。やむを得ない場合は必ず連絡を入れること。
- 学外に施設見学や調査に出向く場合がある。

**予習・復習**

資料の収集、調査、レポート作成、発表準備などのため、授業時間外での学習が必要である。

**評価方法**

授業・討論への取り組み（30%）、レポートなどの提出物（40%）、研究発表（30%）によって総合的に評価する。

**テキスト**

適宜、資料を配布する。



**授業概要**

乳幼児の保育・幼児教育について、保育の内容（カリキュラム）、保育の質の向上、子ども理解、乳児保育における配慮等の視点から、幼児教育・保育の在り方について考えていきます。

毎回、参考文献・先行文献を仲間とともに読み、それについて議論をすることから、自分が研究したいテーマ（やりたいと思う卒論テーマ）を明らかにすることを目指します。

4年次の論文執筆に向け、研究に必要な知識や態度やルール及び研究計画を確認していきます。

**授業計画**

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	研究の進め方
第 2 回	幼児教育・保育の今日的課題	第 17 回	研究動機・目的を明らかにする
第 3 回	論文作成の研究についての心構え	第 18 回	研究課題の検討
第 4 回	資料の検索について	第 19 回	先行研究・文献のリサーチ
第 5 回	文献の読み解き方と報告方法	第 20 回	調査の方法のリサーチ
第 6 回	文献購読と内容についての議論①	第 21 回	参考文献について
第 7 回	文献購読と内容についての議論②	第 22 回	研究方法
第 8 回	文献購読と内容についての議論③	第 23 回	分析方法
第 9 回	文献購読と内容についての議論④	第 24 回	研究計画の作成
第 10 回	文献購読と内容についての議論⑤	第 25 回	研究計画の作成
第 11 回	文献購読と内容についての議論⑥	第 26 回	研究計画の作成
第 12 回	テーマについてのグループ討議	第 27 回	研究計画の作成
第 13 回	各自のテーマについて①	第 28 回	研究計画の報告
第 14 回	各自のテーマについて②	第 29 回	研究計画の報告
第 15 回	まとめ	第 30 回	まとめ（卒論作成に向けて）

**到達目標**

文献を読み解く力を身につける。

研究をすすめていくために必要な知識や態度やルールを身につける。

仲間と議論し、自らの考えを鍛える。

議論をとおして相手の考えを理解する。

自らの問題関心を深め、卒業論文のテーマを決める。

**履修上の注意**

報告や課題に積極的に取り組み、議論に活発に参加することが求められる。

仲間の意見を尊重し、自分の意見もしっかりと伝えるコミュニケーション能力が求められる。

欠席は、原則として認めない。

後期は、特に自発的な姿勢が求められる。

**予習・復習**

研究テーマの基本的知識は、積極的に復習しておく。授業に向けては、文献購読を行い自分の意見をまとめてく。日常から、研究的思考を木曜に努力すること。

**評価方法**

出欠の状況、授業態度、30%、ゼミでの報告態度や報告内容、議論への参加態度 30%、課題レポート提出 40%で、総合的に判断する。

**テキスト**

各自関心のあるテーマについて、相談の上、必要な資料を配布する。

**授業概要**

子どもの特徴に合わせた柔軟な支援や発達援助の知識・技能を身に付けるため、子どもの発達や配慮が必要な子どもなどを中心としつつ各自の考えていきたいテーマを検討する。専門演習では、保育の専門分野を復習しつつ、興味のあるテーマを探っていく。また、卒業論文作成に必要な技能（情報収集の方法、データの獲得方法、論文のまとめ方、プレゼンテーションの方法など）の獲得を目指す。過去の卒業論文では、次のようなテーマがあった。

【テーマの例】

- ・発達障害児・者との接触経験の有無が発達障害のイメージにどのように関連しているか
- ・障害児・者及びその家族に対する認識に関する研究
- ・子どものヒヤリハット場面における大学生の重大さの認識と対策について
- ・大学生における保育者効力感が子どものやる気を促す関わり方に及ぼす影響
- ・自己主張・自己抑制と幼児期の癩癩の関係

**授業計画**

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	春期の振り返り
第 2 回	研究の進め方	第 17 回	研究法の理解（質問紙など）①
第 3 回	子どもの心理発達の理解①	第 18 回	研究法の理解（文献調査など）②
第 4 回	子どもの心理発達の理解②	第 19 回	研究法の理解（その他）③
第 5 回	障害等がある子ども①	第 20 回	研究テーマの検討①
第 6 回	障害等がある子ども②	第 21 回	研究テーマの検討②
第 7 回	配慮が必要な他の子ども①	第 22 回	文献収集と情報整理①
第 8 回	配慮が必要な他の子ども②	第 23 回	文献収集と情報整理②
第 9 回	学習した内容のまとめ①	第 24 回	文献収集と情報整理③
第 10 回	学習した内容のまとめ②	第 25 回	研究方法の検討①
第 11 回	テーマ探し、文献収集①	第 26 回	研究方法の検討②
第 12 回	テーマ探し、文献収集②	第 27 回	研究方法の検討③
第 13 回	ディスカッション①	第 28 回	卒業研究の構想発表①
第 14 回	ディスカッション②	第 29 回	卒業研究の構想発表②
第 15 回	まとめ	第 30 回	まとめ

**到達目標**

配慮が必要な子どもの特性を踏まえた保育を考えられる。人の学習や行動について科学的に考える視点を持つ。

**履修上の注意**

- ・保育の専門分野を復習するため、その学習に意欲をもって取り組むこと。
- ・協同学習やディスカッションなどを行うため、他者との関係を良好にするよう努めること。
- ・資料作成にはパソコンを使用する。オフィス系ソフト（文書作成、表計算、プレゼンテーション）、インターネット検索などのスキルを身に付けるよう努めること。
- ・遅刻3回で欠席1回として扱う。また、遅刻・欠席の場合は連絡を入れること。
- ・施設見学などを行う場合がある。

**予習・復習**

調査や発表準備・練習のために授業時間外で自主学習が必要である。

**評価方法**

授業中の態度（20%）、研究発表への取り組み（40%）、レポートなどの提出物（40%）によって総合的に判断する。

**テキスト**

適宜資料を配布する。

**授業概要**

教育の現場では、植物園や動物園、科学館などの社会教育施設の利用を伴う活動が近年多く見られる。その際、教師はこれらの施設の学習プログラムを単にそのまま利用するのではなく、十分な事前学習と周到な計画・立案を行った上で依頼する必要がある。本演習の前半は、こうした観点から、県内および近隣の社会教育施設等を取り上げ、理科教育・環境教育に関連した学習プログラムを実際に作成・提案することを通して、将来的な各種教育現場での実践力を身につけることを目標とする。

後半は、理科教育・環境教育に関する最新の情報を得る目的から、学会誌や専門書の輪読、科学実験を行う。これらを通して、さまざまな理科教育・環境教育分野の潮流と諸問題について検討を行い、卒業論文の土台づくりとしたい。

**授業計画**

第1回	前半オリエンテーション	第16回	後半オリエンテーション
第2回	環境と人間	第17回	理科教育・環境教育論文とは、発表の順番等の決定
第3回	理科教育・環境教育とは	第18回	発表の技法、資料の作り方
第4回	環境保全・環境創造と理科教育・環境教育	第19回 ～第29回	論文紹介・解説のプレゼンテーションと討議、卒論にむけて
第5回～ 第6回	学校教育現場における環境教育 ※学外活動	第30回	後半まとめ
第7回～ 第8回	社会教育施設の見学のための準備、計画		
第9回～ 第10回	社会教育施設の見学、資料収集 ※学外活動		
第11回～ 第12回	社会教育施設を利用した学習プログラムの作成		
第13回～ 第14回	学習プログラム提案のプレゼンテーションと討議		
第15回	前半まとめ		

**到達目標**

- ・社会教育施設等を用いた理科教育・環境教育に関連する学習プログラムの作成・提案を行うことができる。
- ・学術論文の内容や構成について要旨を作成して説明することができる。
- ・卒業論文のテーマの方向性を決定できる。

**履修上の注意**

本演習は、4年生の卒業論文につながるものであるため、卒業論文を理科教育や環境教育に係わる内容で作成しようという学生であること。

授業を土日に振り替えて、社会教育施設や小中学校の授業観察に行く予定である。したがって、指定した校外学習日に必ず出席すること。

班ごとの活動や個人発表が多くなるので、欠席しないことが前提になる。遅刻3回で欠席1回として扱う。また、20分以上の遅刻は欠席として扱う。

**予習・復習**

本演習の単位修得には、プレゼンテーションや個人レポート作成のために授業以外の自主学習（予習）が必要となる。また、卒論に向けた活動ともなるので、授業内で得た知識を復習することも必要となる。

**評価方法**

授業中の態度や参加状況（30%）、プレゼンテーションへの取り組みと発表内容（40%）、個人レポートなどの提出物（30%）によって総合的に判断する。

自身のプレゼンテーションを欠席した場合、授業に無断で欠席した場合は評価の対象とはしないので十分注意すること。

**テキスト**

適宜印刷資料を配付する。

**授業概要**

「子どもの貧困」「ひとり親家庭」「児童虐待」「ヤングケアラー」など、子どもや若い世代におきている社会福祉にかかわる問題や、児童養護施設・障害者施設での生活や利用児・者へのケア・対応に着目し、どうかかわっていけばいいか、解決に向けての取り組みや支援について考え、興味関心と問題意識を高めていく。

春期は上記問題や子育て支援にかかわる問題・テーマを各自で選び、文献購読・意見交換、発表を行う。秋期では卒業論文の執筆にむけて、研究テーマの設定、研究テーマに関連する文献・資料を収集する、先行研究に目を通す、研究計画の作成といったプロセスに取り組むとともに、研究方法についても学んでいくこととする。また、児童養護施設、障害者施設あるいは子ども食堂といった、支援の現場への見学も実施したい。

キーワード：子どもの貧困、児童養護施設・障害者施設でのケア・支援、子ども食堂、地域子育て支援

**授業計画**

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	文献購読・意見交換	第 17 回	研究テーマについて
第 3 回	文献購読・意見交換	第 18 回	文献・資料収集
第 4 回	文献購読・意見交換	第 19 回	文献・資料収集
第 5 回	文献購読・意見交換	第 20 回	研究方法について①アンケート
第 6 回	文献購読・意見交換	第 21 回	研究方法について②インタビュー
第 7 回	文献購読・意見交換	第 22 回	研究方法について③観察
第 8 回	文献購読・意見交換	第 23 回	先行研究をまとめる
第 9 回	文献購読・意見交換	第 24 回	先行研究をまとめる
第 10 回	文献購読・意見交換	第 25 回	研究計画を作成する
第 11 回	文献購読・意見交換	第 26 回	研究計画を作成する
第 12 回	興味のあるテーマについて発表	第 27 回	施設あるいは支援現場見学（学外）
第 13 回	興味のあるテーマについて発表	第 28 回	施設あるいは支援現場見学（学外）
第 14 回	興味のあるテーマについて発表	第 29 回	施設あるいは支援現場見学まとめ
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ

**到達目標**

- ・子どもや若い世代に起きている問題への関心を高め、解決に向けての取り組みや支援について考える力をつけていく。
- ・卒業論文作成にむけて、その過程を理解し、研究計画を作成する。
- ・研究方法について理解する。

**履修上の注意**

- ・子どもや若い世代に起きている問題やそれらに対する支援について、興味・関心を持っていること
- ・卒業論文については上記の内容や社会福祉領域でテーマを選び、取り組んでもらうことになるので、心積りをしておくこと
- ・意見交換や発表には、積極的に取り組むこと

**予習・復習**

予習・復習については随時指示する

**評価方法**

発表の内容・充実度 40%、期末レポート 40%、授業への参加度（発言回数、内容など）20%をふまえ、総合的に判断する。

**テキスト**

各自の興味・関心を集約したうえで、随時指示する。

**授業概要**

卒業論文の前段階として、専門演習では幼児教育分野におけるテーマを自由に選択し、共通性の高いテーマを選択した複数人で実際に協同して行う。1.文献検索等の情報収集方法、2.保育・幼児教育分野に適した社会調査法、3.学術論文および報告書の作成方法、4.プレゼンテーションの方法等から、論文作成に必要な方法論を体系的に学んで行く。また、その過程における文献レビューやディスカッション等を通じて、興味を持っている分野について科学的な視点で改めて向き合うことで、より具体的なテーマを発見し、卒業論文演習へ繋げていくことを目的とする。

**授業計画**

第1回	オリエンテーション	第16回 ～ 第19回	定性的調査の講義と演習：グループインタビューをしてみよう！
第2回 ～ 第3回	興味がある分野やテーマの確認(現状で把握している情報に対する考察)	第20回 ～ 第21回	データ解析の方法(文章のまとめ方、グラフや表の書き方)
第4回 ～ 第5回	文献の検索方法および読み方	第22回 ～ 第24回	研究報告書の作成とプレゼンテーション
第6回 ～ 第7回	定量的調査方法が用いられた文献レビューとディスカッション	第25回 ～ 第27回	卒業論文に向けた研究計画の立案
第8回 ～ 第9回	定性的調査方法が用いられた文献レビューとディスカッション	第28回 ～ 第29回	研究計画の発表
第10回 ～ 第14回	定量的調査の講義と演習：アンケートをしてみよう！	第30回	秋期まとめ
第15回	春期まとめ		

**到達目標**

幼児教育分野における科学的なリテラシーを涵養しながら、卒業論文にむけたテーマを発見し、研究計画を立案する。

**履修上の注意**

- ・ 討論・演習において主体的に取り組める学生の履修を望む。
- ・ 原則として毎回出席すること。遅刻・欠席の場合は都度対処するので必ず連絡すること。
- ・ 授業内における一人ひとりの発言は貴重な情報である。どのような内容であっても互いに否定的に捉えないことをルールとする。
- ・ 文献レビューの準備等、授業外での課題にも積極的に取り組むこと。

**予習・復習**

事業時間外で取り組む課題を課すことがある。

**評価方法**

春期における文献レビュー等の諸課題、秋期における研究計画の立案を各50%で評価する。

**テキスト**

特に指定しない。必要となる文献等については適宜授業内で告知する。

**授業概要**

本演習は、人文社会/教育に関する卒業論文執筆に向けて研究の作法について学ぶことを目的とする。研究や学問とは、知の共有財産（公共財）を創り出すことである。つまり、自分だけ特定の情報について知っていても意味をなさない。誰かと共有して初めて学問知となる。自らの関心に沿って学問知を創り出すために、問いを見つけ、それを育てる作法、調査研究の作法、ゼミのメンバーと共に議論し深めていく作法、他者を説得する作法、自らの研究行為をふりかえりさらなる課題を見出す作法について体験していく。最終的には卒業論文という独特な世界をつくることになるが、その過程はむしろゼミのメンバーや研究にかかわるその他の人々との協同作業である。

**授業計画**

第 1 回	イントロダクション	第 16 回	調査内容についての報告と共有①
第 2 回	教育学研究の位置づけと目的	第 17 回	調査内容についての報告と共有②
第 3 回	調査研究の特質と方法①調査とデータ	第 18 回	研究計画書の修正①問いを再設定する
第 4 回	調査研究の特質と方法②問いと方法論	第 19 回	研究計画書の修正②対象と方法の調整
第 5 回	文献報告①フィールドワーク（教材開発）1	第 20 回	研究計画書の修正③先行研究の再調査
第 6 回	文献報告②フィールドワーク（教材開発）2	第 21 回	大学図書館の活用①オンライン調査
第 7 回	研究計画書の作成①研究の問いと仮説	第 22 回	大学図書館の活用②他大学等の調査
第 8 回	文献報告③参与観察（授業研究）1	第 23 回	問いと先行研究の検討①
第 9 回	文献報告④参与観察（授業研究）2	第 24 回	問いと先行研究の検討②
第 10 回	研究計画書の作成②先行研究の調査法	第 25 回	問いと先行研究の検討③
第 11 回	文献報告⑤生活史（教師研究/歴史研究）1	第 26 回	口頭発表と質疑応答の作法
第 12 回	文献報告⑥生活史（教師研究/歴史研究）2	第 27 回	卒業論文構想の発表①
第 13 回	研究計画書の作成③研究の意義と限界	第 28 回	卒業論文構想の発表②
第 14 回	研究計画の発表と今後の課題の共有①	第 29 回	卒業論文構想の発表③
第 15 回	研究計画の発表と今後の課題の共有②	第 30 回	卒業論文執筆に向けて

**到達目標**

- ・自ら関心をもった研究テーマについて、研究計画書を作成することができる。
- ・文献購読や他者との議論を踏まえて、教育現象や社会現象に対する調査法について概観することができる。
- ・文献報告や自らの研究テーマの発表を通して、他者と対話する作法を身につける。

**履修上の注意**

他者やテキストとの対話を通じて、自己の研究関心を明らかにしていきます。一人ひとりの関心や成長が異なることを前提としながら、ゼミ全体での学びや共有する時間を大切にしていきたいと思います。

なお、大学図書館や学外の施設での調査など教室外での調査の可能性も考慮に入れておいてください。

**予習・復習**

基本的には、文献報告や研究計画書に関する調査が予習および復習となります。

授業外の時間や夏季・冬季の時間を中心に、日々少しずつでも調査・研究を進めていきましょう。

**評価方法**

- ・研究計画書：40%
- ・報告・発表：40%
- ・議論の作法や姿勢：20%

**テキスト**

テキストや購読文献は、初回の授業で決定していきます。なお、以下の文献を踏まえて検討していきます。

<文献>

太田裕子 (2019). 『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ』 東京図書.

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 (2016). 『質的社会調査の方法——他者の合理性の理解社会学』 有斐閣ストゥディア.

佐藤郁哉 (2008). 『質的データ分析法——原理・方法・実践』 新曜社.

ウヴェ・フリック (2011). 『新版 質的研究入門——〈人間の科学〉のための方法論』 春秋社.

関口靖広 (2013). 『教育研究のための質的研究法講座』 北大路書房.

やまだようこ・サトウタツヤ・能智正博他 (2013). 『質的心理学ハンドブック』 新曜社.